

実績確認概要書

平成 28 年 2 月 5 日

審査機関名 シー・アイ・ジャパン株式会社

1 . 排出削減事業の概要

排出削減事業名	バイオマスボイラ利用による省エネルギープロジェクト
承認番号	JCDM-PJKC0244
排出削減事業者名	社会福祉法人いいたて福祉会
排出削減共同実施事業者名	環境経済株式会社
その他関連事業者名	
事業実施場所	特別養護老人ホーム いいたてホーム (福島県相馬郡飯舘村伊丹沢字伊丹沢 5 7 1)
事業の概要	本事業は、木質バイオマスチップを燃料として使用するボイラーを導入することにより、従来燃料として使用していた A 重油の使用量を低減するとともに、二酸化炭素排出量を削減する事業である。
排出削減量の計画	2009 年度 186tCO ₂ /年 2010-2016 年度 203tCO ₂ /年 2017 年度 17tCO ₂ /年 (事業実施期間合計 1,624t-CO ₂)
クレジット認証期間	事業開始日 2009 年 5 月 1 日 終了予定日 2017 年 4 月 30 日
排出削減方法論	方法論番号 001 ボイラーの更新

2 . 本実績確認の対象期間

2013 年 4 月 1 日 ~ 2015 年 11 月 30 日 (第 6 回目実績報告)

3 . 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	359tCO2 (2013 年 4 月 1 日 ~ 2015 年 11 月 30 日)
-------	---

4 . 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	審査手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って実施した結果生じていること	<p>1) 実績対象期間の確認 第 5 回目の実績確認の期間と重複せず、適切に設定されていることを確認した (2013 年 4 月 1 日) 。 また、排出削減量の算定は、この開始日を基に適正に計算されている。</p> <p>2) 対象期間中の設備稼働確認 更新後バイオマスボイラーは実績確認の期間中継続的に稼働していることを、本実績報告対象期間における生成熱量集計データ等により確認した。なお、A 重油ボイラーは、バックアップボイラーとして併用運転されている。</p>
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	<p>排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じていることを確認した。</p> <p>1) モニタリングの方法 承認排出方法論及び承認排出削減事業計画通り、モニタリングが実施されていることを確認している。</p> <p>2) 活動量の正確性 バイオマス熱使用量について、積算熱量計の計測値より適切に算出していることを、熱量集計データにより確認した。その記録結果については、正しく実績報告書に反映されていることを確認した。</p> <p>3) 単位発熱量、排出係数等の係数の確認 排出削減量の算定式及び使用されている単位発熱量、排出係数等が、方法論及び承認排出削減計画に従っていることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定及び算定結果の確認 事業実施後排出量、ベースライン排出量、排出削減量の算定結果を測定結果と突合、方法論の定めた計算式との照合、計算過程の確認、再計算等を実施した結果、排出削減量の算定結果が正確であることを確認した。 リーケージ排出量として想定されるバイオマス燃料輸送における排出量、ならびにボイラー補機電力使用にともなう排出量は、排出削減量の 5% 未満であることを確認した。</p>

算定期間がクレジット認証期間の終了日を超えないこと	本実績確認の対象期間は 2013 年 4 月 1 日から 2015 年 11 月 30 日までであり、排出削減量を算定した期間がクレジット認証期間の終了日である 2017 年 4 月 30 日を超えていないことを確認している。
---------------------------	---

5 . 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価
特になし

6 . 特記事項

本モニタリング期間における再生可能エネルギー利用量について、バイオマス熱利用量は原油換算 112.1KLであることを確認した。

以上